

令和4年度学校評価 結果・学校関係者評価

学校名	唐津市立鬼塚小学校	達成度(評価) A: 十分達成できている B: おおむね達成できている C: やや不十分である D: 不十分である
2 学校教育目標	笑顔いっぱいの学校づくり ～温かい心で認め合い、目標に向かって挑戦する子どもの育成を目指して～	

3 本年度の重点目標	①考える力：道徳を軸とし、他教科での言語活動の充実を図る。 ②心の力：家庭・地域と連携した体験活動や人権教育の充実を図ることで、豊かな心を育む。 ③体の力：体力向上を目指し健康教育を推進する。
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1) 共通評価項目			
重点取組			最終評価
評価項目	取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師85%以上 ○アンケートで交流活動に肯定的な回答をする児童80%以上	●全学級の共通実践として、いろいろな授業で交流活動を位置づけ、書いたり伝え合ったりする活動を積極的に取り入れる。
	○授業や朝の時間、家庭学習等を関連させ、基礎基本の確実な定着を図る。 ○読書の習慣化	○佐賀県学習状況調査において、知識・技能と読む領域で県の平均正答率以上 ○各学年の目標読書冊数達成85%以上	●基礎的基本的な知識・技能の定着を目指し、朝の時間や授業の中で練習問題に取り組む時間を確保する。 ●全校読書や隙間の時間の読書を推奨し、習慣化につなげる。図書館利用を促す工夫をする。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○アンケートで、「自分について」問われる質問に肯定的な回答をした児童85%以上	●道徳科で伝え合う活動を取り入れ、互いの意見を尊重し、認めあえるような学級作りに取り組む。 ●人権教育(人権集会等)の全校的な取組の充実。 ●うち読カードを作り、「家族でタイム」として週末に道徳教材を家族で読んだり話したりする取組を呼びかける。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等について組織的対応ができていると回答した教員95%以上 ○アンケートで「学校が楽しい」と回答する児童90%以上	●いじめアンケート等を通して児童の状況を把握し、いじめの早期発見や早期解決に取り組む。 ●生活指導協議会や児童理解研修会等で気になる児童の情報共有を行い組織として対応する。
	◎自ら夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	○アンケートで「頑張りたいことや目標をもって、それを最後まで頑張っている。」と回答した児童85%以上	●地域の方との交流や体験活動、学校行事等でサッカーカード(目標・振り返り)を活用し、自分を見つめ直す機会を計画的に設定する。 ●桜カードに保護者や地域の方から感想や子ども達へのメッセージを書いていただくことで、自分や友達を多面的、肯定的にとらえる機会を作る。
●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」 ●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	○休み時間に外で遊ぶ児童の割合80%以上 ●「健康に食事は大切である」と考える児童80%以上	●天気の良い日に外で遊ぶことを奨励する。 ●運動会、持久走大会など体育的行事に向けた児童の自主的な取組の充実 ●全校的な立腰の取組 ●保健便り等の発行 ●感染予防をふくめた衛生管理の徹底 ●食育、給食指導の充実
	○「安全に関する資質・能力の育成」	●児童の交通事故0(ゼロ) ○自転車の乗り方等について、「交通ルールを守っている」と回答する児童80%以上	●避難訓練や安全教室などの計画的な実施。 ●校区内の通学路や危険箇所の点検。 ●食物アレルギー児童の対応について職員研修を行い、危機管理に対する共通理解を図る。 ●休み時間の外遊びについて、場所や遊具の使い方等について安全面の指導を行う。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	●18時退勤日を設定する。 ●業務改善について職員からの意見を募り、職員全体での意識改革を図る。 ●職員全体でデータを整理・共有し、学年共通のお便りや教材を活用する等、業務の軽減を図る。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	・コロナ禍の中、できる限り通常の授業・学校行事に近い形での実施となるよう工夫しながら全職員で考えて取り組んだ。校内研究で取り組んでいる道徳教育については、道徳教育推進教師を中心に、互いの良さを伝え合い、認め合う道徳科の授業づくりに対する職員の学びが深まった。 ・学力向上については、基本的な知識・理解の習得に課題があるため、今後も全職員で取り組むこととする。また、タブレット端末を活用した授業づくりを進めるとともに家庭学習も定着させたい。 ・教職員の働き方改革については、職員の意識は高まりつつある。今後も教職員の意識改革と、疲労感軽減、働きやすさに向けて工夫する必要がある。
----------------	--